

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

3月
& 4月

福玉便り

ふ く た ま だ よ り

通巻 113 号

発行：『福玉便り』編集委員会 NPO 法人埼玉広域避難者支援センター・（一社）埼玉県労働者福祉協議会

協力：生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先：NPO 法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-2 1 ときわ会館 1F TEL0120-60-7722

東日本大震災追悼式 黙祷の会

日付：2025 年 3 月 11 日（火）

場所：上尾市 シラコバト団地 集会室

（住所：上尾市大字上 370 番地）

時間：14:15 受付開始 式辞 14:46 黙祷河津桜見学

今年の追悼式は、シラコバト団地 集会室にて営みます。
感染症の拡大で集会室が閉鎖等の場合は集会室前広場となります。

主催：東日本大震災に咲く会 ひまわり

問い合わせ：橘（タチバナ）080-3091-6215

協力：つなげよう花の心実行委員会／『福玉便り』編集部／
シラコバト団地自治会／極アート



眠れない日が続いているとき

気にかかることがあるとき

困っていることがあるとき

理由ははっきりしないけれど・・・誰かに話を聞いてもらいたいとき
いつでも気軽にお電話ください。

福玉相談センター

電話：0120-60-7722（フリーダイヤル）

火曜日・水曜日・木曜日（9：30～16：30）

電話で相談しづらい方はメールでもどうぞ。

メール：fukushima_soudan@yahoo.co.jp



埼玉県内の避難者数について

『埼玉便り』編集部では2013年以来、毎年1月に埼玉県内の市町村を対象とした避難者数調査を実施してきました。当初は埼玉県庁の発表数と

大きなずれがあり、独自の避難者数調査が必要となったという経緯があります。その後、埼玉県庁発表数と『埼玉便り』編集部調査でほぼ同じ数字となったため、2025

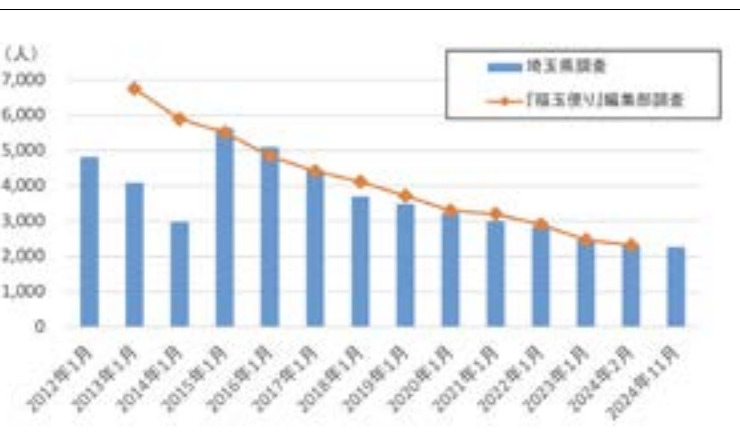
年1月は独自調査を見送ることにしました。代わりに埼玉県ホームページで公開されている最新の避難者数を見てみると、2024年1月1日現在で2,265人となります。市町村ごとの内訳は、左の表の通りです。

また、過去の調査結果と比較すると、グラフの通り2013年から避難者数の定義が曖昧であ

るという根本的な課題があります（詳細は吉田さんの記事をお読みください）。今回お示した数字が一人歩きすることに留意しながら、避難者数の実態把握はどうあるべきか、編集部として引き続き検証していきたいと思っています。（編集部・原田）

者数が微減を続けていますが、急激な減少も見られないこともわかります。様々な事情を背負って、埼玉県で避難生活が長期化している方々が多くいらっしゃることを、改めて確認したいと思います。

埼玉県庁発表数は、復興庁の方針のもとで各市町村が集計したものを県庁が集約している数字になります。避難者数の定義が曖昧であ



所在市町村	施設別				合計
	A		B	C	
	公的主体が管理する住宅※1	民間賃貸住宅	親戚・知人宅等	病院等	
さいたま市	8	9	165	0	182
川越市	0	29	74	0	103
熊谷市	2	3	33	1	39
川口市	0	180	0	0	180
行田市	0	5	10	0	15
秩父市	0	9	26	0	35
所沢市	0	18	52	1	71
飯能市	0	2	4	0	6
加須市	1	53	349	5	408
本庄市	0	1	0	0	1
東松山市	0	0	1	0	1
春日部市	0	0	103	0	103
狭山市	0	22	33	1	56
羽生市	5	2	27	1	35
鴻巣市	0	3	54	1	58
深谷市	0	3	13	1	17
上尾市	16	11	55	0	82
草加市	2	23	48	0	73
越谷市	3	115	32	4	154
蕨市	0	9	1	0	10
戸田市	0	0	29	0	29
入間市	0	0	48	0	48
朝霞市	0	0	30	0	30
志木市	0	8	16	0	24
和光市	0	13	0	1	14
新座市	3	0	15	0	18
桶川市	0	23	0	0	23
久喜市	2	0	77	0	79
北本市	0	11	3	0	14
八潮市	0	13	31	0	44
富士見市	0	8	7	0	15
三郷市	0	20	20	0	40
蓮田市	0	11	9	0	20
坂戸市	4	9	8	0	21
鶴ヶ島市	4	0	31	0	35
日高市	0	0	8	0	8
吉川市	0	3	18	0	21
ふじみ野市	0	2	50	0	52
白岡市	0	1	1	0	2
伊奈町	0	2	0	0	2
三芳町	0	1	1	1	3
毛呂山町	4	3	16	0	23
越生町	0	0	1	0	1
滑川町	0	0	4	0	4
嵐山町	0	1	5	0	6
小川町	2	0	0	0	2
川島町	0	2	0	1	3
吉見町	0	1	4	0	5
鳩山町	0	0	9	0	9
ときがわ町	0	0	4	0	4
上里町	0	0	0	1	1
寄居町	0	8	0	0	8
宮代町	0	1	0	1	2
杉戸町	3	0	17	0	20
松伏町	0	0	6	0	6
合計(55市町村)	59	638	1,548	20	2,265

なんのための「避難者数」でしょうか

3ヶ月に1度、発表されている復興庁による「避難者の数」。公的に示されているのはこれしかないため、報道でもこの数字が使われます。おそらく、今年の3月も「2・9万人」という数字が報道されるのでしょう。これまでも指摘されてきたように、実態と

は相当乖離している数字です。なぜ、この避難者数問題は解決しないのでしょうか。

左の表を初めて見た人は、いくつか疑問を抱くのではないのでしょうか。

まず「B」の「親戚・知人宅等」の数字が一番多い

所 在 都道府県	施設別			計		所在 市区町村 数
	A 応急仮設 住宅等及 びそれ以 外の賃貸 住宅等	B 親族・知 人宅等	C 病院等		(前回との 差)	
北海道	477	262	5	744	(+ 1)	42
東 北	岩手県	0	301	302	(- 2)	20
	宮城県	12	687	703	0	26
	福島県	492	(※ 1)	5,756	(- 68)	(※
	上記三県以	1,684	1,710	3,407	(- 24)	68
	合 計	2,188	7,962	10,168	(- 94)	134
関 東	4,800	7,705	72	12,577	(- 91)	311
東海・北陸	858	289	3	1,150	(- 16)	85
近 畿	697	686	1	1,384	(- 2)	88
中 国	712	560	5	1,277	(+ 1)	41
四 国	66	47	1	114	0	20
九州・沖縄	814	372	3	1,189	(- 4)	108
合 計	10,612 (- 72)	17,883 (- 135)	108 (+ 2)	28,603	(- 205)	829 (0)

のです。東日本大震災・原発事故からもうすぐ15年目となる今、「どこかに身を寄せている人」が最も多いということがあるのでしようか。

各都道府県や市町村まで問い合わせをすると、「B」の「親戚・知人宅等」の「等」に、借上住宅から退去後、賃貸料を払って避難し続けている人、家を購入した人などを全て入れていることが分かっていま

えます。

本来、避難者数は、生活実態を知り、困窮している人がいないかなど、政策や支援を考えるうえで大切な数字です。状況の違う方々が、同じカテゴリーとして考えられてしまえば、必要な支援がわかりません。特に、避難者数が「住居」に紐づけて数えられているところが重要で、なぜ「住居」と紐づけられているかといえば、「住居」こそ、人間が生活するうえで、最も重要な経済支援であり、人権であるからです。

「親戚・知人宅」というのは、いわば「自助・共助」です。この数字が額面通りのものではないうえ、最も多くなっていること自体が、長期化する原子力災害における「公共」を考えるうえでは恥ずかしいことではないかとも思います。

加えて、全員把握していないという問題もあります。「借上住宅から出たら外している」「家を買ったら外している」という自治体

もあれば「疑問があれば直接確認している」という誠実な自治体もあり、担当者の「やる気」によって、ばらつきが生じてしまっているのです。本来、避難者自身が避難者だと思っていたら避難者です。実際に、その旨の通知も2016年に復興庁から出ています。避難している人、ひとりひとり、状況も思いも違いますから、それができる限り尊重される仕組みであるべきです。

もう一つは、福島県内だけ「避難者の定義」が違う問題もあります。福島県内では、仮設住宅や借上住宅から退去して「恒久住宅」に引っ越しした時点で、避難者数からは外されることになっているのです。これは、県外とは違っています。そのため、福島県内には、5756人しか避難者がいないことになっています。

しかし、福島県内には、原発に最も近い4町（浪江町・双葉町・大熊町・富岡町）だけを考えても、多く

の住民が、元の住宅に戻れないまま、避難生活を続けています。そこで、4町だけの避難者数だけで考えてみます。

福島県内には4町合計で

2万9463人避難中です(2025年1月1日現在)。これは、各町のHPに出されている数字を足し算すれば出せる数なのですが、復興庁の表の「避難者の数」の全国合計「約2・9万人」を福島県内の4町だけで超えてしまっていることになりました。果たして原発事故の避難者数というのは、何のために数えられているのか、と考えこんでしまします。

こういった矛盾に気づいている行政の方もいるのだと思います。公共サービスの

実施に従事する人たちは、国民の立場に立ち、責任を自覚し、誇りを持って誠実に職務を遂行する責務を有する、と法律にもあり、その思いをもって仕事をしている方もたくさんいます。

こういった矛盾点や、必要

な支援施策は、本来、今後に生かすためにも改善されるべきだと思えますが、残念ながら原発事故後の皆さんの教訓は生かされないままです。

驚いたのは、能登半島地震の借上住宅が、ここ最近わずか1年で打ち切られると発表されていることです。本来の仕組みでは、最低でも2年です。たった1年で、家も仕事も失った人たちが、

生活再建を遂げられる人があるのでしょうか。この件については、災害に関わり続けてきた弁護士らが「異例の事態だ」と声をあげています。が、「被災者」「被害者」の生活再建がいかに難しいかということが、政策に反映されていない証左だと感じます。

実態を把握してください、と15年目を前にいうのも虚しさがありますが、ひとりも取り残されない本当の「復興」とは何かを考えることは、必要な政策につながるのだと思います。

(編集部・吉田)

洲走の湯

10月の会津は、薄曇りの淡い陽の光に、ススキが揺れて白く輝いていました。セイタカアワダチソウの黄色が一際目立ち、風はまだ柔らかかったけれど、きつと今頃は刺すような空気と雪で真っ白な世界でしょう。会津坂下町にある、「洲走の湯」は、私の大好きな福島の温泉の一つです。ご存じの方もいるかもしれません。

木戸をくぐって正面にある居室には掘り炬燵があり、無造作にテレビのリモコンが置かれていましたが、いつものおじさんの姿が見えませんでした。「ここにちは」と言いながら、奥の部屋をのぞき、木の階段も半分登ってみましたが、静まり返っていました。仕方なく、玄関のたたきに腰掛けて待とうと思ったところに、車の音がして、おじさんがやってきました。



「ほら、これ、ヤマリンドウ」とおじさんは片手に鮮やかなブルーの花を持っています。山に咲いていたのを摘んできたといいます。「お風呂？ひとり？」と聞かれ、はい、と答えながら、タオルを忘れたことに気がつき、タオルは、ありますかと尋ねると「いいよ、使つて、これ」と奥の木棚から清潔なタオルを出してくれました。ここはいわゆる古民家なのに、いつ来ても掃除が行き届いていて、清潔感があります。漆塗りの棚には、馬ぶどうの焼酎漬の瓶が並べられ、1つひとつに日付のシールがついています。奥には男湯・女湯のお風呂、一階と二階にはそれぞれ3〜4部屋の和室があり、とても広いのです。お掃除、大変じゃないですか？と聞くと「そう、大変なの」と心底困ったような声が返ってきました。

洲走の湯は、150年前から続く歴史ある温泉。4代目のおじさんの名前は齋藤賢悦さん。75歳には見えないほどお肌がツルツルで、「温泉のおかげですか？」と聞いたら「そうかもね、毎日入ってっから」と笑っていました。少し前までは家族経営で宿もやっていたそう

ですが、ご家族が亡くなり、1人になってからは、日帰り温泉のみ営業しているそうです。アルカリの鉱泉で、とろとろの優しい柔らかいお湯。飲泉も可能な温泉で、飲むと本当に美味い。昔から神経痛、汗疹、痔病などに効くといわれ、子どもに発疹が出ると、親がバケツで温泉を汲みにきたそう。齋藤さんの家では、調理から洗濯から、すべてこの温泉らしいのです。最近、地域おこし協力隊の若い人が二階で素敵な古民家カフェをやっていて、そのコーヒーは、やっぱり温泉で淹れたものだそうです。

齋藤さんは、「カメムシの捕まえ方、知ってる？」と言いながら、ペットボトルで作った落とし穴のあるカップを片手に、カメムシを箸で器用にチョン、チョン、と捕まえていきました。カメムシがたくさん出る年は、雪が多いらしいですね、と声をかけると、「そっらしいねえ」と言いながら、どんなカメムシを捕まえていました。

10月にいたカメムシが告げた大雪は当たったようです。いま、会津は雪だらけ。皆さんも、好きだった福島の温泉、ありますか？

(編集部・吉田)

お手紙を書いてみませんか？

先日、長野県松本市でお話をさせていただいた時に、質疑の時間に会場から、一人の女性がマイクを持ってお話してくださいました。

「福島県鏡石町で、飲食店をやっていました。その日、中学校の卒業式で、父兄の人たちが食事を終わってくつろいでいるときに、いきなり、突き上げるような地震で・・・衝撃がすごかった、こんな地震は経験がなかったんです。いきなり、ドーンと。飾り物が落ちたりして、震度6でした・・・」

声が震えていました。会場も、シーンとして、その場にいる人がみんな、その女性の言葉を待ちました。

「前に、地震の話、原発事故の話をしてしようとしたら、涙が出てきて、一言も話せませんでした。爆発、テレビでみていて、この世の終わりかと思うくらいに緊張しました。まさかここまで

は飛んでこないよね、と思っていたけれど、後になって北に向かつて山を通って、栃木まで流れていたと知りました。放射線量の測定もしましたが、ホットスポットはいろんなところにバラバラにあって・・・」

「この国は弱者を切り捨て、オリンピックをひらいて、コロナだつて・・・こんないい加減なものはありません。いい加減すぎます」

絞り出すようにおっしゃいました。最後に、「・・・今日話せて、よかったです」と言うてくださいました。

会場には、涙を流す人もいて、あたたかい拍手が起きていました。

もうすぐ14年、15年目が始まるという今、「やっと話せた」とその女性はおっしゃっていました。話したいけれど話せないという孤独や苦しみを思うと、私も苦しくなりました。それと同

時に、今も、そういう思いをしている人が全国のどこかにおられるのだろうか・・・とも思いました。

私が川越市で交流会をはじめたとき、最初の頃に来てくださった方たちのことは、忘れたことがありません。もう連絡が取れなくなっ

てしまった方もいて、(私が数年前に、携帯電話を壊し、データが消えてしまった失態もあり) 今でもふと、「元氣かな・・・」と思うことがあります。またお会いしたいな・・・とも思っています。

あるいは、あの頃元氣でも、コロナを機に元氣をなくしてしまったり、あるいは家族の状況が変わって元氣をなくしてしまったり、いつでも元氣でいられるというわけでもありません。元氣でも、元氣がなくても、案じています、ということが伝わるといういな、と願っています。

福玉便りの編集部では、会いたい人、元氣かどうか

気に掛かっている人との架け橋になるといいねという話になりました。

もしよろしければ、お名前を明記せずとも、インシャルで構いませんので、また会いたい人へのお手紙を書いてみませんか。

もしかしたら、読んでもらえるかもしれないし、あるいは読んでももらえないかもしれない。「届きますよ」というお約束はできませんが、でも、思いを伝えたい人に、お手紙を書く時間は、その人を思い出す大切な時間でもあります。よかったら、編集部宛に、「福玉お手紙」と件名に書いて、送っていただけたらと思います。皆さんからの心のこもったお手紙を、お待ちしております。

(編集部・吉田)



〒330-0061
埼玉県さいたま市浦和区
常盤6-4-2 1ときわ会館 1F
メール：fukushima_soudan@yahoo.co.jp

第30回埼玉いのちの電話チャリティ映画会 「夜明けのすべて」

日時：2025年3月15日(土) ＊開場はそれぞれ30分前です

午前の部 10:30～ 音声ガイドとバリアフリー日本語字幕
午後の部 14:00～ 通常上映

場所：大宮ソニックシティ小ホール

鑑賞券をご希望の方は、福玉相談センター(0120-60-7722)までご連絡ください。



原発事故後の双葉町・浪江町を 小説で描くこと

小高出身の小説家・志賀泉さんが、原発事故後の双葉町・浪江町を舞台とする新作『爆心地ランナー』（表題作および「こんなやみよののはらのなかを」の2編収録、コールサック社刊）を2024年6月に出版されました。前作『百年の孤舟』（『福玉便り』91号掲載）に続き、今回も上尾シラコバト団地・東日本大震災に咲く会ひまわりの橘さん（浪江町）にインタビューをしていただきました。

橘 まず、タイトルの由来をお聞かせ下さい。

志賀 「爆心地ランナー」は、金子兜太の俳句「彎曲し火傷し爆心地のマラソン」に着想を得ました。爆心地だった長崎の街を、戦後にマラソンランナーが喘ぎながら走っている。街は復興したけれど、原爆の惨状は苦しみながら走っているランナーの体を通して蘇っているんです。そういう句だと僕は理解しているんですが、それに原発事故被災地を走る少年とを重ねてみたかった。

橘 次に、なぜ作品の舞台を双葉町・浪江町に設定したのですか？

志賀 今まで僕は自分の故郷である小高町を舞台にした小説を書いてきましたが、だいぶ復興が進んで、敢えて暗い面を強調した作品を書くのは申し訳ない気がしてきました。そこで、震災の爪痕が生々しく残る双葉町や浪江町に舞台を移しました。特に浪江町は、復興のために街並みが急速に消えて空き地が広がっていた。一種異常な風景です。多くの

人は原発事故災害という放射能を問題にしますが、そうじゃない。心の問題の方が大きいんだと。その心の荒廃を象徴するものとして、荒れ野のようになってしまった街の風景を描きたかった。

橘 そんな風景を地元出身の書き手が記録として残すことは、とても意義のあることだと思います。解体前の橘邸での体験で心に残ったことがあるとのことですが。

志賀 ひと晩泊まらせてもらったことがありますね。お父さんが亡くなって間もないということもあって、荒れている一方で生活の痕跡も生々しくて、お布団なんかは体温がまだ残っているような雰囲気がある。空き家というのは荒んでいくにつれて逆に住んでいた人の記憶が生々しく剥き出していくような気がします。

お母さんが家計簿につけていた日記が四十年分くらいありました。自分の人生に対するこだわりが強い人だと思いましたが、震災が起きるとそういうものを一気に捨てて、ポンと別の次元に飛んじやつた人じゃないかなと思います。

橘 最終章・10の※は一気に話が語られるが、どんな心境で書き上げたのか？

志賀 物語を書き進めながら、どう終えたらよいか、実は最後まで決まらなかった。主人公には幸せになつてほしい。しかし予定調和のハッピーエンドで終わらせたくない。だって、震災の傷から立ち直つてない人がまだいるのですから。それでも、主人公が次々と困難に遭う展開の末に、どうにか希望が見出せる場面を創り出せたことで、ほっとしたというか、自分も幸福な気分でした。

ちなみに、ラストシーンの舞台となったF高のモデルは僕の母校、双葉高校です。休校でありながら2023年に創立百周年を迎えました。あの最終章は母校に捧げるつもりで書きました。

橘 書いているうちにラストシーンが見えてきたのですね。最後にお聞きしたいのは、F高OBの作家、黒部アキラ。出てくるのは名前だけという謎の作家を書いた理由を教えてください。

志賀 黒部アキラは「爆心地ランナー」にも「こんなやみよの」にも出てきます。ふ

たつの作品は実はひとつの作品であることを示す、繋ぎ目の役割です。二作の主人公はどちらも弱い人物です。弱い人間を動かして物語を躍動させるには強い人間が必要です。その役割を担った存在が黒部アキラです。しかし黒部本人は姿を現さない。抽象的な存在、メタレベルの存在であり、ある意味、荒ぶる神です。

加えて、F高出身の作家という設定ですから、もちろん僕自身を意識しています。僕の作風は純文学的で保守的ですが、実は破天荒でめちゃくちゃな小説を書きたいという欲望もあるんです。その欲望を黒部アキラの小説にして作中に入れ込んでみました。

橘 登場人物を引っ張るということですね。志賀さんが今後、黒部アキラに、どれだけ肉薄するか、楽しみです。

志賀 泉

1960年福島県小高町（現・南相馬市小高区）生まれ。小高小学校・同中学校・双葉高校を経て「松學舎大学卒業。2004年『指の音楽』（筑摩書房）で太宰治賞受賞。原発事故を題材にした小説に『無情の神が舞い降りる』（筑摩書房）、『百年の孤舟』（飛騨美）がある。



甲状腺検査&交流会

12月8日、甲状腺検査
&交流会がWITH YOUさ
いたまにて開催されました。
原発事故後に各地で甲状腺
検査が続いている牛山元美
先生が来てくださいました。
また、埼玉県や東京都など
各地から、足を運んでくだ
さいました。

参加してくださった一人の
方は「今でも心配はありま
す。できるだけ検査をした
いと思っていて、こういう機
会があるとありがたいです」
とお話してくださいました。
交流スペースでは、さま
ざまなお話をしてください
ました。避難指示のあった

地域から避難をしている方
は、「役場について行けば支
援物資がもらえて、私たち
のような孤立して避難した
人たちは孤独だった。役場
について行けばよかったの
ではないかと思うことがある」
と。あるいは、原発事故後
の健康について、「いつどこ
で何をしたか、そういう記
録を、子どもたちのために、
必要じゃないか。手帳のよ
うなものを県が作ってくれ
たらいいんじゃないか」とい
う声もありました。
埼玉で避難生活が続ける
うえでの、大変さ、理不尽
さも語ってくださいました。



「行政手続きで、福島では
『これで埼玉で手続きでき
る』って言われたから、埼
玉の役所に行ったら、今度は
『ダメ』って言われて。この
間喧嘩してきた。そうした
ら、『早く住民票を移した
らいんだ』と言われまし
た。そういうことじゃない
んだ・・・」避難先に「住
民票を移す」「移さない」と
いうのは、避難されてきた
方々、誰もが悩むことです。
苦渋の決断をした方もおら
れるでしょうし、今も、迷
い続けている方もおられる
と思います。そんなに第三
者が「こうしたら」と言え
るような簡単なものではな
いと思います。
帰り際、「みんなに会えて
よかった」と話してくださ
た方もいました。子どもた
ちも、どんどん大きくなっ
ているのだな・・・と感じ
た日でもありました。お越
しくださった皆さん、あり
がとうございました。

※写真は、許可をいただいて撮影してい
ます
(編集部・吉田)

東京電力福島原発事故による被害者の皆様へ

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

原子力損害賠償に関する無料相談会&請求書作成支援のご案内

- 開催日 令和7年3月1日(土) 10:00～16:00
【休憩 12:00～13:00】
- 会場 『アットビジネスセンター池袋駅前別館 9階』
住所:東京都豊島区東池袋 1-6-4 伊藤ビル
・JR『池袋駅』東口より徒歩1分
・ビックカメラ本店向かい
・ZARA 池袋店が入居しているビル9階
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。
- 弁護士による個別相談
・原子力損害賠償全般のご相談に対応いたします。
・原則として、1組1時間までご相談いただけます。
- 行政書士による請求書作成支援
・追加賠償の請求書をお持ちください。
・追加賠償の請求書のみ作成を支援いたします。
・請求書への記入はご自身でお願いいたします。
- ◇専門家へご相談ください。
・請求漏れがないか確認したい
・住居確保にかかる費用の賠償請求について相談したい
・ADRの申立てについて相談したい など

※中間指針第五次追補等を踏まえた追加賠償が未請求の方は、
ぜひご相談ください。今回の追加賠償は、自主的避難等対
象区域の方々も対象となります。

■個別相談・請求書作成支援は、必ず 事前予約 をお願いいた
します。

●連絡先

□ 事前予約はこちらから 予約専用ダイヤル 0120-330-540

【受付時間】9:30～17:00 月～土(祝休日を除く)

□ ご来場が難しい場合は、電話相談をぜひご利用くださ
い! 電話相談ダイヤル 0120-013-814

【対応時間】10:00～13:00、14:00～17:00 月～土(祝休
日を除く)

・行政書士による電話での情報提供(事前予約不要)

・弁護士による電話での相談は、祝日を除く毎週火・

木 10:00～13:00(事前予約制)

・オンラインでのご相談も可能

各地の 交流会など

新型コロナウイルスの感染拡大により、交流会の流動的な状況が続いておりました。各交流会の感染対策については連絡先にお問い合わせください。なお、各交流会に参加される方は、引き続き体温測定の上でご参加いただき、参加中は消毒や換気にご協力ください。

①	加須市	双葉町民によるボランティアカフェ	090-5356-8778 (鶴沼さん)
③	加須市	双葉町手芸教室	080-5532-7380 (薄井さん)
⑤	加須市	すくすくのおそびひろば	090-2411-8598 (戸恒さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560 (藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわり	080-3091-6215 (橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236 (林崎さん)
⑬	越谷市	あゆみの会	090-9425-2001 (石上さん)
⑬	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123 (島田さん)
⑬	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
⑬	ふじみ野市	おあがんなんしょ交流会	090-5345-8408 (松舘さん)
⑬	川越市	ここカフェ@川越	070-5080-4494 (鈴木さん)
⑬	さいたま市	玉兎の会	090-6128-1948 (小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

⑬おあがんなんしょ交流会

おあがんなんしょ交流会は、コロナ禍以降は参加者も少なくなり、どうしたら良いか悩んでいました。昨年11月の交流会後、皆さんにご意見を伺いました。毎月ではなく年に2～3回でも良いとの意見も多く、希望を募りながら柔軟に集っていくことにしました。直近の交流会は「お花見会」を考えています。090-5345-8408 (松舘さん)



⑬オバトン

福島県の方達と知り合ってから14年、オバトンというかたちの活動もコロナ禍での規制がありながらも11年を迎えます。高齢になり免許返納し参加できなくなった方にはデマンド交通などの申請、手続きなどお知らせしましたが、加須市外の方の参加が課題になっています。昨年11月には初めてキャッスルきさいに大人のぬり絵を展示し、市民の方からも好評でした。また音楽室でのハーモニカ、合唱、手話歌も皆さん楽しみのひとつのようです。参加されている方のお誘いで新しく参加する方もいます。いつでもお待ちしております。昨年8月より参加されている方達と話し合い参加費をあげさせていただきました。細々ながら食事、交流会を続けて行きたいと思っています。

3/11(火)、3/23(木)、4/8(火)、4/24(木)

10:00～14:00 キャッスルきさい

090-6526-8560 (藤井さん)

⑬双葉町手芸教室

3/19(水)

10:00～12:00

双葉町社会福祉協議会加須事務所
080-5532-7380 (薄井さん)

※長い間毎月1回集まってきましたが、この3月で終了することになりました。楽しい時間をありがとうございました!

⑬あゆみの会

3/16(日) 畑でジャガイモの植付

3/30(日) 東越谷第2公園で花見

090-9425-2001 (石上さん)

<http://k-ayuminokai.info/>

⑬ここカフェ@川越

3/13(木) 福島復興まつり 10:00～16:00 ウェスタ川越 小ホール&ロビー
講演 吉田千亜さん

4月 避難者交流会 皆様のご都合で日程調整中

pororon311@gmail.com、070-5080-4494 (鈴木さん)

⑬さいがい・つながりカフェ

1/9(木)、1/23(木)、2/13(木)、
2/27(木) 11:00～15:00

3/13(木)、3/27(木)、
4/10(木)、4/24(木)

11:00～15:00 WithYou さいたま和室

080-5532-7380、tunagari.saitama@gmail.com

